

令和 6 年 6 月 19 日 市民と市長との対話集会 神坂区長会・まちづくり協議会

開会

市長あいさつ

今日は神坂地区の区長会、まちづくり協議会の皆様と、神坂地区の防災対策について、お話をさせていただく。中津川は昔から、地震の対策強化区域。また近年は、長雨による水害も全国どこにでも起こりうる状況で、神坂地区だけでなく市内どこの地区でも、災害対策についてしっかり考えていかないといけない。限られた時間ではありますが、よろしくお願いします。

進行

まず神坂地区の防災に関しての課題、問題点を問題提起する。今日は要望を受け付ける機会ではなく、市長と一緒に解決策を考える場なので、皆さんよろしくお願いします。

参加者

指定避難所である神坂学校体育館と馬籠ふるさと学校への避難が困難である。現在、神坂スマートインターチェンジの工事により、県道が通行止めになっており、来年の夏ごろまで続く予定。神坂地区の指定避難所は中央道より北側にしかない。神坂地域のほとんどの集落は、迂回路を利用しないと避難所へ行けない状況。しかし迂回路は道路幅が狭く、傾斜地、崖地などで崩落の可能性がある場所も多く、危険である。

参加者

能登半島地震も中山間地で、急峻な地形ということで言うと神坂地区と似ている。このような地域は大きな地震が起こると、地崩れ、崖崩れが起こりやすい。崖崩れなどが起こると、指定避難所まで行けず、地区の集会所などを活用することが想定される。孤立してしまったときに、備品、食料品なども含めて、どう届けるのかを検討する必要があるのではないかな。

参加者

神坂地域には防災備蓄倉庫が約 9 か所設置されているが、地域によっては未整備の箇所がある。備蓄されているものは、スコップなどの作業用具が中心で、寝袋や毛布等の避難者の対応物資の備蓄は 1 ヶ所しかない。備蓄品の管理体制の構築も必要ではないかな。

防災備蓄倉庫は、設置されてから年数が経過しており、老朽化が懸念される。腐食もあるのが実状で、設置場所の拡充や、備蓄品、老朽化についても検討していきたい。

参加者

災害発生時に避難所となる、各集会所の安全対策について。集落が孤立したような場合は、

避難所として地域の集会所を使うことが想定されるが、避難所が非常に遠い集落もあり、問題になる。また地域の集会所は、老朽化している建物が非常に多く、砂防指定地区など危険な場所に建てられている場合もある。耐震化の問題など、不適格と思われる建物については、安全性をどう確保していくかが大切。集会所の耐震診断や、周辺が危険ではないか、現地確認などが必要だと思う。

参加者

指定避難所の防災備蓄品等々が不足することは目に見えている。暮らしに最低限必要な、冬の寒さ対策など、本当に足りているのかという視点で検討が必要じゃないかと思っている。

今多くの方が防災士をしてくれている。しかし、大切なのは有事の際に自主防災会をしっかりと機能させること。防災リーダーと言われる人のさらなるスキルアップ、民間の団体にもご活躍いただいて、横展開をどうするか。

参加者

市では、阿木事務所の次に神坂事務所を建て替えるプランがあると聞いた。事務所は災害があった場合に、行政として災害対応の拠点や、避難場所になる。しかし現状として、この地区は土砂災害の指定区域となっている。老朽化もあって、地震があったときに、持ち堪えられるだろうかと懸念している。

令和8年度から神坂の学校が落合に統合されて、建物、体育館などが使用されなくなる。指定避難場所になっている体育館が、統合した後どうなるのか。

冒頭に市長の挨拶で防災は大事だと言葉があったが、少子化、高齢化、それから農地の問題など、緊急な課題がたくさんある。市長の考えとして、防災の位置付けをどのように考えておられるのか、質問したい。

進行

問題提起が終わりました。最後に質問もありましたので、市長からコメントをお願いします。

市長

全体的に、今日皆さんから話していただいたことは、私も同意見。

まず指定避難所には備蓄が必要。一番問題になるのは、食料など期限がある物をどれだけ備えて、管理するのか、どれだけローリングしていくのかは考えていかなければいけない。

防災備蓄倉庫も一緒だと思う。防災備蓄倉庫と避難所は、一緒に考えるべき。何をどれだけとか、どこにというのは、考えていかなければいけない。神坂地区だけでなく、中津川市全体に関して、しっかりと備えをしなければいけない。

避難所の場所、老朽化の問題だが、避難所を住民の方が行けない場所に作っても意味がない。地域の方が行ける場所が大前提。

また、自主防災会に関しては、改めてその組織を考えていかなければいけないと思っている。中津川市内には知識を持った防災士の方が本当に多い。他市とは比べものにならないぐらい防災士の資格を取っている方が多い。その方たちが中心となる自主防災組織を作り、いざという時に機能する自主防災会にしなければいけない。また、大切なのは自助。自分がどうするか、自分の家族をどうするか。仕事をしている方たちは、職場をどうするか。まず自助をどうするかということを、市民の皆さん一人ひとりに意識を持ってもらうということをして市役所としてやっていく必要があると思っている。

公民館の建て替えの順番については、申し訳ありませんが、全てを把握していない。

私の中での防災の位置付けは非常に高い。やっておけばよかったとなるのが一番駄目。いつ起こるか分らないからこそ、やっておく。一遍に全ては出来ないことはご理解いただきたいが、出来ることから優先順位をつけてやっていくことが大事。

市民の皆さん一人ひとりに対する意識づけからやっていかなければいけない。人の意識を変えるのは大変なことだが、命に関わることなので、発信をしながら、地域の皆さんと一緒に頑張って取り組んでいきたい。

参加者

避難の問題について、馬籠地域の避難所は収容人数が非常に少ない。馬籠は観光地なので、観光客を避難させたらパンクしてしまう。観光客を避難させるために、救援バスを出して駅まで送るとか、色々な対応が想定されるが、バスを出すにしても道路が悪いなどの問題が起こり得るので、やはり一時的な収容容量を持った避難所が必要ではないか。

もう一つ、住民の住んでいる環境によって、災害が起こったときに本当に避難できるのか。以前馬籠の寺沢川で水害があったとき、私はどこにも避難できなかった。仮に避難できないとしたら、どういう対策をしたらいいのか考えておくのが非常に重要だと思っている。

参加者

能登半島の地震のニュースで、ガソリンで動く発電機が非常に機能したというのを見たので、私も発電機を買った。停電になったときに発電機があれば、冷蔵庫も動かせるし、スマホも充電できる。災害時には有効な物の一つだと思う。購入するときに、市から補助金があるといいと思った。

参加者

岐阜大学の先生が、神坂地区の危険地帯を見て回ったことがある。山を登った用水の上の方は、昔、土石流が起こった跡が見られた。事務所、温泉などの施設がある場所なので、そういった事態への備えは必要だと思う。

参加者

自主防災会の見直しというのを聞いて、大切なことだなと思った。独居の女性なども多いので、いざという時に誰が助けるかなども含めて、自主防災会のシステムができていると良いと思う。

参加者

広報の無線があるが、火災や何か伝えたいことがあるときに、声が反響してしまって、何を言っているのか聞き取れない。高齢者の方はスマホを持っていないので、市からの非常事態の情報を受け取れないのが課題。

もう一つ、毎月月末に地区の常会がある。その時に地区の防災に関しての話し合いを少しでもしたら良いと思う。「自分の命は自分で守る」ということをモットーとして、常会の時に区長が率先して、そこに自主防災会も併せて、絶えずそういう話し合いをしたらどうか。

参加者

神坂地区は非常に急峻な地形。特に、落合からこの地区に入ってくる県道沿いの山が非常に急峻で、大雨が降るとかなり土石流が流れてくる。大きな地震でそこが崩壊して、県道が通行止めになってしまう可能性がある。今はインターが工事中で、馬籠へ行くこともできない。何かがあったときに、陸の孤島になってしまう。そういった場合に、食料品や医薬品を、ドローンを使って運び込むことができないか。

参加者

能登半島の地震の際、緊急地震速報が流れてきて、その時に振動を感じて皆さん何か行動をとれたのか。正直言って私はとっさには行動はとれなかった。いざというときにとっさの行動がとれるかどうか。日頃の心がけ、備えが一番大事だと、改めて感じた。指定避難所は大事だが、各地区のいわゆる二次避難所も非常に大事。避難する時には3日分の食料と毛布を持っていく。避難所に行ったらすぐに食料があるわけがない、それは当たり前のこと。心がけや準備をしておくのは大事だと思う。ハード面と併せて、ソフト面も充実していく必要がある。

参加者

私は少し別の観点でお話したい。一つは農業区域として田畑の荒廃について、田んぼや畑がどんどん荒れていくような状況。維持していくことが防災にもつながるし、なんとかしていかないといけないと思う。もう一点、藤村記念館が非常にピンチだという話。このままだと藤村記念館を閉鎖せざるを得ないのではないかと聞く。この地域の重要な施設ですので、なんとかしていく方法を考える必要がある。

参加者

自らの命は自らで守るということがやはり大事であるし、災害が起こったときには地域のコミュニティの中で、助け合ったり救助しあったりというのが効果が高いと聞く。そのためにも、自主防災会の内容の充実は大切。それと、災害の後にはライフラインをどう確保していくかが大事だなと思う。特に山間部では地滑りがあって孤立状態になる可能性がある。大手ゼネコンなどと防災協定を結んで、応急的な対応をしてもらおうと、車が通れて必要な物資が運べる。それと非常食。期限がある食料品は入れ替える必要が出てくると思うが、5年の期限であれば4年で入れ替えて、残り一年は外国の貧しい国に寄付するとか、そういった活動もいいのではないかな。

参加者

うちの目の前も 2、3 回道が通れなくなったので、早急に処置をしてもらえたらと思う。

参加者

先ほどから自主防災会の話が出ているが、私の部落も少ない人数で、高齢者、独居の方が多い。自主防災会は一応あるが、いざ災害が来た時に、なかなか動けないのが実情だと思う。いざという時への備えが一番重要だと思っている。

進行

やはり防災に対しては人の命が関係するので、皆さんそれぞれ思いがあるのかなと思う。災害関連死、助かった命、せっかく助けた命が無くなってしまうように、考えてもらえればと思う。

市長

防災無線については、本来は全ての家庭に防災無線が行き届いたほうがいい。しかし、スピーカーの場所、地形、家の場所などで、全ての家には聞こえていないのが現状。そこをカバーするために、メール、ホームページやテレビの文字情報があるが、それでも、高齢者の方はスマホを使えないなどの問題もある。これは共助に頼らなければならない。

道路の寸断について、建設の協定の話があったが、中津川市もいろいろな業界、業態の皆さんと協定を結んでおり、中津川の建設協会と防災協定を結んでいる。

防災とドローンの話など、良い話を伺えた。

自主防災会の体制の話。これは本当にやっていかないといけない。余談だが私は東日本大震災の時に、出張で東京にいた。震度 5 という地震を体感して、私も避難難民になった。その時一番困ったのは、自分が安全だということを、家族や会社に伝えられないということ。携帯が繋がらない、公衆電話も使えないので、中津川の状況も分からない。自分が安全だ

と伝えられないのがもどかしかった。何かあったときに、自分が安全、家族が安全だと、連絡しあう体制を確認しておくことも重要なことだと思う。

防災というテーマで話してもらえるとすることは、それだけ意識が高いということなのでとてもありがたい。防災は一人ひとりの意識が大切。そして地域の皆さんと市と連携を取りながら、実行に移していかないといけない。ぜひ引き続き地域の皆さんからご意見をいただきながら、市としても避難所の問題、備品の問題に取り組んでいきたい。

最後に自らの備品の備えの問題。市として備えられる物は、数に限界があります。そうだった時に、自分、家族の分の食料、最低限の物は備えていただかなければいけない。それを持って安全な場所に行っていただく。そこで1日か2日か、とりあえず凌いでいただいて、それからの救援を待つ。まずは自助。自らの意識レベルを高めることをやっていかないといけない。

議長

皆さんの話を聞いて、避難所の対応、備蓄品のこと、おっしゃる通り大事だと思う。中津川市は、どこを見ても平らなところが無い。斜面があるところがほとんどで、特に神坂は急峻な地形。神坂が一番心配なのは孤立集落になること。能登半島地震でも、孤立していること自体分からない状況が続いて、なかなか救助にも行けなかったというところがあった。神坂も地震が起きたら、必ず孤立集落ができと思っている。あとは、例えば固定電話の電話回線が断ってしまう、携帯電話も基地局の電気が来なくなったら使えない。そうすると、集落が孤立しているというのを災害本部に知らせられないという状況になってしまうので対策が必要。私が思いつくのは衛星電話。孤立しそうなところに、衛星電話を設置する必要があるかもしれない。

道路が崩れる、道をふさいでしまうなど自然断裂が起こってしまうと、奥が今どういう状況になっているのかはなかなか分からない。対策としてドローンの活用、ヘリコプターに来ていただいて、今ダムはどういう状況なのか、もうじきそのダムは崩れてしまわないか。そんな状況も確認できるような体制をとっていく必要があるのではないかな。当然すぐには出来ないが、しっかり協議しながら、どんな対応をしていくのか、皆さんと一緒に考えていきたい。

参加者（まとめ）

市長と直接話しあえる貴重な機会です、実のある話し合いができて嬉しかったし、ありがたい。

私は防災士をやっているが、まずは自助、そして共助、そのあとが公助。自助は出来ることがたくさんあるがなかなか出来ていない。例えば家具の耐震、固定。阪神淡路大震災の時、亡くなった方の多くは、家具に挟まれたり潰されたりする圧死だった。今一度、箆箆などの家具を固定してほしい。

あとは一週間分の食料品。すぐに出来ることもあるので、頭の隅に入れていただければと思う。

本日は小栗市長はじめ、市の執行部の皆様、そして皆様ありがとうございました。これを持ちまして、終了します。ありがとうございました。